

文部科学省選定

# 相次ぐ 高齢者住宅火災 身近に潜む火災の危険

85歳の女性が亡くなった火災現場

65歳の高齢者が亡くなった火災現場

明日の犠牲者にならないために...



## 企画意図

火災によって多くの高齢者が亡くなっています。亡くなった人の多くは逃げ遅れです。こうした悲劇を防ぐには、まず、出火を防ぐこと、出火した場合には、早く発見して避難することが大切です。しかし、高齢になると、身体が思うように動かなくなったり、パチパチと燃える音がしても気づかないことがあります。したがって、高齢者ならではの火災対策が必要となってきます。また、一人暮らしの高齢者も増えています。こうした中で高齢者住宅の火災を防ぐには地域の協力が欠かせません。

本作品では、まず、高齢者住宅での出火の原因を最新のデータから検証し、出火を防ぐための対策としてどのような心構えが必要か、防災製品の効果、安全機能のついたガスコンロなどを紹介します。次に、出火した場合の煙の怖さ、火災を早く発見し逃げ遅れを防ぐための火災警報器の使い方、そして、高齢者を守るための地域の取り組みを紹介。出火防止、早期発見、早期避難と、高齢者自身の日頃の心がまえと地域の力の大切さを訴えます。



## 作品概要

## ■住宅火災の恐ろしさと同齢者

全国の住宅火災で亡くなる方の、およそ6割が高齢者だ。高齢者が火災で命を落とさないためには、どのようなことを心がけたらよいのだろうか？

## ■住宅火災の主な原因

・**たばこによる火災**：たばこは火災の主な原因の一つ。もっとも危険なのは寝たばこである。寝たばこの危険を実験した映像を捉えて——対策としては、寝たばこは絶対にしない、寝る前に吸い殻の確認、灰皿に水を入れる、などが必要である。

・**調理器具による火災**：コンロの火災で多いのがてんぷら油による火災。てんぷら油が発火する様子を捉えた実験映像では、初期消火も容易ではない激しい火柱が立つ様子が映し出される。対策としては火から離れる際は必ず火を消す、コンロの近くに可燃物を置かず整理整頓、などが重要である。安全センサーつきコンロについても説明する。

・**ストーブによる火災**：石油ストーブ、電気ストーブの間違った使い方によって起こる火災の再現。対策としては、上に洗濯ものを干さない、つけたまま寝ない、石油ストーブの給油は完全に火を消してから行う、などがある。

・**コンセントからの出火**：コンセントの埃が原因で起こるトラッキング現象について説明する。

・**着衣着火に注意**：調理中の着衣着火、仏壇のろうそくによる着衣着火など危険なシーンを再現。

## ■逃げ遅れを防ぐには

逃げ遅れにより高齢者が亡くなった悲惨な火災現場の映像、写真を重ねて——住宅火災で亡くなった人の、およそ6割は「逃げ遅れ」だ。

・**煙の危険性**：火災現場では煙で周りが見えなくなって逃げる方向を失い、有毒ガスで身体が動かなくなって逃げ遅れ死に至る。対策としては—？

・**火災警報器の設置**：いち早く火災の発生に気づ

くために住宅用火災警報器の設置が義務づけられている。警報機の種類、設置の仕方、注意点について詳しく解説する。

## ■地域みんなで高齢者を火災から守る

日頃から高齢者を火災から守る取り組みを続ける地域で、町内会員や民生委員が高齢者宅を訪問する様子を捉える。そして、この活動を進める方々にマイクを向ける。高齢者宅では、どのようなことを確認、注意しているのだろうか？

「洋服の袖がコンロにかかっているかないかなど、細かい事を話す」「ガスコンロの周りに燃えやすいものがないか」「コンセントに埃がたまっているかないか」「住宅用火災警報器が設置されているか」など、きめ細やかなことに気を使い、高齢者宅を見守っていく。

## ■高齢者が火災の犠牲にならないために…

まず火を出さないこと。火が出たら早く発見して早く避難することが大切だ。そして、地域の中で高齢者を見守り、ともに防火に取り組むことが、大事と訴える。

●監修：東京理科大学総合研究機構 教授  
工学博士 菅原 進一

●協力：横須賀市消防局  
横須賀市長井地区番場町内会  
東京ガス  
日本市民安全学会

●企画・制作統括：高木 裕己  
脚 本・演 出：川崎 けい子

●制作・著作：株式会社 映学社

■VHS・DVD[カラー・22分]

ライブラリー価格 **¥65,000** (本体価格)

・2013年・映学社作品